

(様式 1-3)

福島市生活拠点形成事業計画 生活拠点形成事業等個票

平成 29 年 5 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	25	事業名	道路事業(成出・稲荷前線)	事業番号	F-1-1
交付団体	福島市		事業実施主体(直接/間接)	福島市(直接)	
総交付対象事業費	37,300(千円)		全体事業費	37,300(千円)	
事業概要					
<p>東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難者の居住の安定した生活環境を確保し、長期にわたる避難生活を安心して過ごせるよう、福島市北沢又字大和田地区、字台前に 282 戸の復興公営住宅を計画しているところであるが、住宅への出入りに伴い、隣接する成出・稲荷前線の交通量増加が予想される。</p> <p>その際、近隣に所在する北沢又幼稚園、北沢又小学校や信陵中学校へ通学する児童・生徒等をはじめとする復興公営住宅入居者及び周辺住民の安全の確保のため、隣接する成出・稲荷前線の拡幅整備を行うものである。</p> <p style="text-align: center;">※H27.7 現在 当該路線を利用して通学する児童数 約 122 名</p>					
【整備概要】					
整備内容：成出・稲荷前線を拡幅し歩道を設置 L=115.7m W=5.5(9.0)m					
※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください 福島市復興計画					
基本方針：地震災害からの復興を強力に進めます。					
取組内容：避難路、救援路、緊急輸送路等の多重性に寄与する幹線道路網を整備する。					
居住制限者の避難の状況との関係					
<p>当該箇所は、県営の復興公営住宅 282 戸が計画され、市道成出・稲荷前線の拡幅を計画しているが、近隣に幼稚園や小、中学校が点在するため、通学路に指定されており、児童等の安全を確保することが重要となってくる。また、復興住宅の東部には、主要地方道福島飯坂線や福島交通飯坂線が通り、中心市街地へ通勤・通学時のアクセス道路として往来することが想定される。</p> <p>こうした状況に加え、復興公営住宅への入居者も成出・稲荷前線を利用することとなるが、当該箇所は幅員が狭く歩道が設置されていないことから、人と車両の混在により大きな事故につながりかねず、特に朝と夕方は市街地への通勤車両により交通量が増加し、成出・稲荷前線をはじめとした周辺市道の混雑や入居者の住宅への出入りも非常に危険になることが想定される。</p> <p>このため、成出・稲荷前線の円滑で安全な交通と、入居者及び児童生徒等の安心・安全な歩行空間を確保するため、住宅の整備に併せて道路改良を行う。</p>					
※避難者支援事業等である場合には以下の欄に記載。					
関連する基幹事業					
事業番号					
事業名					
交付団体					
基幹事業との関連性					

(様式 1-3)

福島市生活拠点形成事業計画 生活拠点形成事業等個票

平成 29 年 5 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	26	事業名	道路事業(下成出・上屋敷線)	事業番号	F-1-2
交付団体	福島市		事業実施主体(直接/間接)	福島市(直接)	
総交付対象事業費	83,700(千円)		全体事業費	83,700(千円)	
事業概要					
<p>東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難者の居住の安定した生活環境を確保し、長期にわたる避難生活を安心して過ごせるよう、福島市北沢又字大和田地区、字台前に 282 戸の復興公営住宅を計画しているところであるが、住宅への出入りに伴い、隣接する下成出・上屋敷線の交通量増加が予想される。</p> <p>その際、近隣に所在する北沢又幼稚園、北沢又小学校や信陵中学校へ通学する児童・生徒等をはじめとする復興公営住宅入居者及び周辺住民の安全の確保のため、隣接する下成出・上屋敷線の道路拡幅を行うとともに、市道東馬除・古屋敷線までの歩道を新設するものである。</p> <p>※H27.7 現在 当該路線を利用して通学する小中学生多数</p> <p>【整備概要】</p> <p>整備内容：下成出・上屋敷線を拡幅し歩道を新設 L=251.0m W=5.5(9.0)m</p> <p>※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください 福島市復興計画</p> <p>基本方針：地震災害からの復興を強力に進めます。</p> <p>取組内容：避難路、救援路、緊急輸送路等の多重性に寄与する幹線道路網を整備する。</p>					
居住制限者の避難の状況との関係					
<p>当該箇所は、県営の復興公営住宅 282 戸が計画され、市道下成出・上屋敷線からのアクセスを計画しているが、近隣に幼稚園や小、中学校が点在するため、通学路になっており、児童等の安全を確保することが重要となってくる。また、復興住宅の東部には、主要地方道福島飯坂線や福島交通飯坂線が通り、中心市街地へ通勤・通学時のアクセス道路と復興住宅の西部を通る市道仁井田・笹谷線から南北に往来することが想定される。</p> <p>こうした状況に加え、復興公営住宅への入居者も下成出・上屋敷線を利用することとなるが、当該箇所は幅員が狭く歩道が設置されていないことから、人と車両の混在により大きな事故につながりかねず、特に朝と夕方は市街地への通勤車両により交通量が増加し、下成出・上屋敷線をはじめとした周辺市道の混雑や入居者の住宅への出入りも非常に危険になることが想定される。</p> <p>このため、下成出・上屋敷線の円滑で安全な交通と、入居者及び児童生徒等の安心・安全な歩行空間を確保するため、住宅の整備に併せて道路改良を行う。</p> <p>※避難者支援事業等である場合には以下の欄に記載。</p>					
関連する基幹事業					
事業番号					
事業名					
交付団体					
基幹事業との関連性					

(様式 1-3)

福島市生活拠点形成事業計画 生活拠点形成事業等個票

平成 29 年 5 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	29	事業名	道路事業(市道上成出・中谷地線)	事業番号	F-1-3
交付団体	福島市		事業実施主体(直接/間接)	福島市(直接)	
総交付対象事業費	7,000(千円)		全体事業費	90,000(千円)	
事業概要					
<p>東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難者の居住の安定した生活環境を確保し、長期にわたる避難生活を安心して過ごせるよう、平成 26 年度に福島市笹谷地区に 24 戸の復興公営住宅が建設され、現在全戸入居しているが、この住宅への進入路である市道上成出・中谷地線は、現況幅員が 4.0m と狭く、近隣に所在する保育園校や信陵中学校へ通学する児童・生徒等をはじめ、近隣商業施設を利用する地元住民など多くの利用者が通行している。</p> <p>また、住宅居住者の通行車両が増加したことに加え、駐車場からの出庫の際、一時的に交互通行となるなど円滑な通行を妨げていることや、住宅建設に伴い市道南田・片目清水線との交差点の見通しが悪くなり、歩行者及び通行車輛の危険性が高まっている。</p> <p>よって、復興公営住宅入居者及び周辺住民の安全の確保のため、隣接する市道上成出・中谷地の拡幅整備を行うものである。</p> <p>【整備概要】</p> <p>整備内容：市道上成出・中谷地線を拡幅 L=55.5m W=6.0(4.0)m</p> <p>福島市復興計画</p> <p>基本方針：地震災害からの復興を強力に進めます。</p> <p>取組内容：避難路、救援路、緊急輸送路等の多重性に寄与する幹線道路網を整備する。</p>					
居住制限者の避難の状況との関係					
<p>当該箇所は、復興公営住宅 24 戸が建設され、市道上成出・中谷地線の拡幅を計画しているが、近隣に保育園と中学校があり、園児や生徒達の安全を確保することが重要となってくる。また、復興住宅の西側にある商業施設を利用する地元住民など、多くの歩行者や車両が往来している。</p> <p>こうした状況に加え、復興公営住宅への入居者も市道上成出・中谷地線を利用することとなり、当該箇所は幅員が狭く歩道が設置されていないことから、人と車両の混在により大きな事故につながりかねず、特に朝と夕方は市街地への通勤車両により交通量が増加し、市道上成出・中谷地線をはじめとした周辺市道の混雑や入居者の住宅への出入りも非常に危険になることが想定される。</p> <p>このため、市道上成出・中谷地線の円滑で安全な交通と、入居者及び園児生徒等の安心・安全な歩行空間を確保するため道路改良を行う。</p>					

※避難者支援事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	

